

令和3年度 県立置賜農業高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

学校教育目標	1 心身ともに健康で、主体的に逞しく生きる人間を育成する。
	2 豊かな教養と主体的学習の習慣を身につけ、地域社会に貢献する人間を育成する。
	3 勤労を尊び、進んで社会公共のために尽くす人間を育成する。
	4 国際的な視野に立ち、日本国民としての自覚を持つ人間を育成する。
めざす生徒像	「いのち」を育み、「こころ」を育み、「ひと」を育む学校
	元気・活力・勢いを創り出す、明るく逞しい置農生

具体的目標	1 「いのちの教育」の推進と健全な心身の育成
	2 確かな「学び」、個に応じた支援
	3 地域と係わり、地域をつくる生徒を育てる学校づくり
	4 生徒と向き合う時間の確保

達成度	A	達成
	B	概ね達成
	C	やや不十分
	D	不十分

自 己 評 価					
番号	評価項目	重点目標	具体的取組目標、方策・数値目標等	達成度	成果(○)と課題(▲) 次年度に向けた改善策等(◇)
1	「いのちの教育」の推進と健全な心身の育成	①「いのちの教育」の推進 ア 自尊・他尊感情を育む取組みを強化する。 イ いじめ0(ゼロ)を目指し、いじめの防止や早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ウ 新型コロナウイルス感染予防、拡大防止に向けた生活指導、保健指導に組織的に	○良好な人間関係づくり(入学時の丁寧な仲間づくり指導を基に) ○生徒に寄り添う丁寧で的確な面談の実施 ○年3回(6月・10月・1月)のいじめ発見調査アンケート実施に伴う生徒ケア等の確な対処 ○感染しない、感染させないための具体的できめ細かな生徒への指導、衛生管理の徹底	B	○規範意識に係る指導が行き届いている。 ・生徒87p、保護者83p ○いじめ等への対応が概ね行き届いている。 ・生徒85p、保護者80p ○部活動に対して意欲的な生徒が多い。 ・生徒87p、保護者80p ○健康・食育に係る指導が概ね行き届いている。 ・生徒84p、保護者83p ○新型コロナ予防対策が行き届いている。 ・生徒89p、保護者86p ▲農業クラブ活動に対する生徒の意欲が低い。 ・生徒73p、保護者86p ◇いじめ予防や解消について、保護者の理解を得るための一層丁寧な説明が必要。 ◇農業クラブ活動について、生徒が充実感を実感できる一層主体的な活動の推進が必要。
		②規範意識の醸成 ア 集団生活の中で社会のルールやマナーの大切さを学び規範意識を育てる。 イ ネット社会における情報モラルの育成とトラブルの未然防止に組織的に取り組む。	○法令遵守への対応 ○SNSの適正な活用指導 ○コミュニケーション力向上に向けた講話の実施		
		③健全な心身の育成 ア 健康教育等を通して基本的生活習慣を確立させる。 イ 生徒会活動や農業クラブ活動を推進し、自主性・主体性を育む。 ウ 部活動を通して健康な身体と豊かな心を育てる。 エ 読書活動を充実させ、豊かな心の育成を図る。	○食育の推進 ○リーダー講習会 ○各種大会への計画的・積極的な参加 ○地域貢献活動の推進 ○肥満傾向生徒の減少 ○計画的準備と運営指導 ○適切な休養を組み込んだ部活動 ○読書機会の積極的活用と推進		
2	確かな「学び」、個に応じた支援	①「学び」の充実 ア 生きる力の源となる学力の基礎・基本を定着させる。 イ 農業の知識、技術等の学びを通し、高い志を持つ担い手を育成する。 ウ 学科横断的な探究型学習、主体的・対話的で深い学びを研究し実践する。	○基礎力強化のための学び直し教材活用 ○個別指導の徹底 ○コンピテンシーベースの教科横断的アプローチ ○新技術や情報の積極的活用 ○対話力向上の実効的取組み ○アクティブラーニングの実践 ○地域課題解決型プロジェクト学習の推進	B	○進路に関する情報提供が行き届いている。 ・生徒86p、保護者78p ○職業観を高める機会が十分設けられている。 ・生徒89徒p、保護者81p ○進路相談等、丁寧な進路指導が行われている。 ・生徒87p、保護者81p ▲一層の授業改善が望まれている。 ・生徒82p、保護者78p ▲学習意欲の高い生徒も家庭学習が未定着。 ・生徒84p、保護者67p ▲取得に対する意欲が低い。 ・生徒73p ◇保護者に対する進路情報提供充実が必要。 ◇ICT活用など積極的な授業改善が必要。
		②キャリア教育の充実 ア 計画的、組織的、系統的な進路指導を実践する。 イ 地域や産業界と連携し、勤労観、職業観を醸成する。	○進路相談の充実 ○資格取得の推進 ○産業視察の実施 ○学習会、進路指導の組織的対応 ○企業訪問及びハローワーク等との連携強化 ○地域課題解決型プロジェクト学習の推進(再掲)		
3	地域と係わり、地域をつくる生徒を育てる学校づくり	①郷土・地域の理解 ア 関係機関と情報を共有し、生徒が地域への興味関心を高める取組みを推進する。 イ 主権者意識を醸成し、地域や社会に関心を持たせる指導を推進する。 ウ 地域活動への参画等を通して、地域の魅力や課題の発見につなげる。	○PTA・体育文化後援会等との密接な連携 ○生徒会役員等選挙における指導 ○1学級1新聞の活用 ○選挙啓発講座の実施 ○地域課題解決型プロジェクト学習の推進(再) ○地域貢献活動の推進(再)	A	○本校は保護者や地域から十分信頼されている。 ・生徒87p、保護者86p ○地域からの支援を実感している関係者が多い。 ・生徒86徒p、保護者84p ○地域課題体感機会が概ね設けられている。 ・生徒84p、保護者83p ○本校魅力発信は概ね行き届いている。 ・生徒83p、保護者86p ▲地域活動への参加機会が少ない。 ・生徒76p ◇新型コロナ禍でも地域に貢献していると実感できる新たな活動や、伝統的活動の改善が必要。
		②郷土・地域との連携 ア 学校を取り巻くネットワークを構築し、それを拡大・充実させる。 イ 生徒会活動等を通して小・中学校との連携を深める。	○小中学校・NPO・先輩・企業等とのコラボレーション ○川西町等との連携 ○地域行事への参加		
		③郷土・地域等への発信 ア 教育実践や研究の成果を積極的に還元する。 イ Webページを定期的に更新し、学校の取組みを積極的に発信する。	○積極的な情報提供 ○研究成果冊子等の発刊 ○YouTube「置農チャンネル」の充実 ○台南大学高級中学と交流 ○HPのリニューアル		
4	生徒と向き合う時間の確保	①個に応じた支援体制の充実 ア 教育相談体制を充実させ、個々の生徒に的確に対応する体制を確立する。 イ 特別支援教育の視点からの指導・対応について教員間で情報共有を図る。	○校内研修会の実施 ○関係機関との連携による実効的な取組推進 ○定期的な情報共有	B	○親身な教育相談を心掛ける職員が多い。 ・教職員86p ○教育相談等丁寧な対応が概ね行き届いている。 ・生徒83p、保護者82p ▲特別支援教育体制の充実を望む職員が多い。 ・教職員76p ▲ワークライフ・バランスが保たれていない職員が多い。 ・教職員65p ▲同僚との協働を意識する余裕がない者が多い。 ・教職員73p ◇発達障がい関連等専門性を高める研修機会の充実が必要。 ◇業務標準化に向けた校務分掌適正配置や、
		②働き方改革の推進(業務負担の軽減) ア 協働的な組織体制を構築するとともに、適切な業務分担を行う。 イ 業務や日課について不断の点検・評価を行い、積極的に改善を行う。	○各種研修の開催 ○勤務時間と業務内容の管理 ○校務支援システム運用の充実 ○部長課主任会の充実 ○人事評価面談の充実 ○会議等の時間短縮		
		③教職員のワークライフバランスの確保 ア 休暇を取得しやすい環境づくりや条件整備を組織的に行う。 イ 部活動や各種活動の教職員の負担を軽減するため、複数で担当する体制を構築する。	○一斉退校日の徹底 ○地域行事への参加体制見直し ○同僚性の向上 ○学校閉庁日の設定 ○年休・特休等の計画的取得		

学校関係者評価
◆意見・▲要望・◎評価等
◎自分と他者双方を認める力の育成に努めており、全校出席率97.8%から生徒の高い「学校帰属意識」が感じられる。 ◎いじめ防止等生徒の心身に直接関わる問題に対して十分対応されている。 ◎「農業クラブ活動」に対する評価が低いようだが、現在の社会動向を意識した実学的な素晴らしい実践である。 ◆「農業クラブ」に係る評価において、生徒・保護者と職員の間に差異があり、その理由を検討する必要がある。 ◆「反省職員会議」資料に主管業務に係る記載が少ない。学校教育目標を一層認識すべきである。 ▲実社会に役立つ研究活動に取組んでいる意義を生徒に理解させ、肯定感を一層高めて欲しい。
◎最新の農業技術習得等、農業指導は十分充実している。 ◎「調べる・まとめる・発表する」課程の充実に努める「課題研究」は興味を深化させ、出口を広げる教育効果が期待される。 ◎町内関係機関等との関係性が強く感じられる。 ◆学習内容の習得など生徒間格差の大きさが、「学業充実度」に係る生徒と職員の差異を招いているようだ。 ▲ICTを一層活用するとともに、著作権等に係る知識も生徒に教授して欲しい。 ▲「反省職員会議」英語科資料にある「わかる喜びの提供」について他教科でも記載して欲しい。
◎「地域あつての学校」という意識が教職員と生徒に定着しており、日々の実践に誇りと自信を持って邁進して欲しい。 ◎各種広報から生徒の充実ぶりが感じられ、地域の理解を高める媒体として十分機能している。 ◎YouTube「置農チャンネル」は農家目線でも質が高い。 ▲農業クラブ等の成果が地域に一層繋がるように工夫して欲しい。 ▲置賜地域の農業高校として川西町内に留まらず他市町に出向くなど、地域に一層貢献して欲しい。
◎親身な教育相談が丁寧にされていることは、大変素晴らしい。 ◎コロナ禍で様々な制限がある中、工夫を凝らしながら、生徒と向き合う時間の確保や充実した教育活動を実施している。 ◆「職員の働く環境」と「心理的安定の風土」の充実には、助けをもらおうとお返ししたくなる「好意の返報性」醸成が必要。 ◆生徒支援を充実させるだけ教職員の負担も増えるが、ワークライフ・バランスの実現に向けて改善を継続するべきである。 ◆普通科高校と異なり、農作業に伴う季節的な多忙を伴う農業高校が通常の全て学校行事を実施することには無理がある。